医窓通信 ISOH TSUSHIN VOL.15

岡山大学大学院 脳神経外科学講座

臨床と研究のバランスのとれた教室を目指す

30名体制で運営する脳神経外科は、最先端の機器・技術を駆使し、患者さん第一の診療を心がける

岡山大学脳神経外科は、1966年に全国で4番目の脳神経外科教室として誕生した、伝統ある教室です。現在、303名の脳神経外科医が当教室の同門会員として、中国・四国・近畿を中心に、約50の関連病院で活躍しています。現在の教授の伊達　勲は、初代・西本　詮教授、第2代・大本堯史教授の後、2003年から、第3代の教授としてこの教室を主宰しています。

現在、助教以上のスタッフ10名、医員・研修医6名、および大学院生14名の合計30名の体制で運営をしています。研究を重視し、それを臨床に反映させる、すなわち、「臨床と研究のバランスのとれた教室を目指す」という方針は、当教室が誕生した時からの基本路線であり、新しい卒後臨床研修制度が始まった後も、この基本路線は崩れておりません。

伊達　勲　教授

当科の研究内容が高い評価を受けてきたことは、日本脳神経外科学会が制定する「日本脳神経外科学会奨励賞（旧ガレーヌス賞）」の当科での受賞者が、過去10年間で8名に上っていることに表れていると思います。

新しいテクノロジーを積極的に臨床に取り入れる

2013年5月に、岡山大学病院に新手術室が誕生しました。それまでの全13室から一挙に全20室に増え、現在の病院全体での年間8500件の手術を、年間1万件にすべく各科努力をしています。脳神経外科の手術室は4室を利用できるようになりました。

脳神経外科にとって大きな変化は、①術中MRIが可能になったこと、②ハイブリッド手術室（術中アンギオが手術と同時並行で行える）ができたこと、③IVRセンター（新手術室と同時期に新設）内に5台の血管撮影装置が設置され、1台が脳神経外科専用となったことです。

さらに、④最先端の画像システムが全室に設置され、光学式・磁場式合わせて3台のナビゲーションシステムが稼働しています。このような最先端のテクノロジーを備えた手術室での脳神経外科の手術件数は、脳血管内手術120件を含めて年間約600件であり、国立大学病院においてはトップクラスの数になっています。

脳腫瘍の手術では、ほとんどの症例でナビゲーションシステムを用いた手術を行っています。並列で行う場合でも、3セットありますので、いずれの部屋でもナビゲーションを使うことができます。さらに、術中MRIの導入により、より安全で、正確な手術が可能になりました。言語野周辺の脳腫瘍の手術では、覚醒下手術を行い、機能を温存しながら、可及的に腫瘍を摘出することができるようになりました。

また、小児の脳腫瘍が多いことが当科の特徴の1つですが、小児科との協力関係がよく機能していて、当科は手術に集中し、周術期の管理が終了しますと、小児科病棟で、化学療法、放射線療法を小児科医師の管理下で行っています。

岡山大学病院外観

「あなたのそばに先進医療」を念頭に置いて、安全で確実な脳神経外科手術を行っていく

脳血管障害の治療は、「切る外科（開頭術、頸動脈内膜剥離術等）」と「切らない外科（血管内手術）」をバランスよく行っています。脳動脈瘤の治療では、開頭クリッピング術とコイル塞栓術を、頸動脈狭窄症の治療では、頸動脈内膜剥離術とステント留置術を、症例毎に使い分けています。

新設されたハイブリッド手術室では、大きな動脈瘤、脳動静脈奇形、バイパス手術など、術中に血管撮影を繰り返すような手術を行い、極めて有用です。

機能的脳神経外科の分野は、当科が開設して以来、当科の最も特徴的な手術分野と言ってよいと思います。パーキンソン病に対する脳深部刺激療法（DBS）がその中心的なものですが、最近は、腰痛・下肢痛に対する脊髄刺激療法（SCS）の症例が激増しています。これらの治療法は、デバイスの発達により、その成績が極めて良好になっていることも、希望者が激増している理由と思われます。

手足のしびれや痛みを主訴とする、脊髄・脊椎疾患（頚髄症、腰椎ヘルニア、脊柱管狭窄症など）に対する手術は、脊髄への圧迫をとり、必要に応じて脊椎を固定することで症状の改善が得られます。高齢化社会において、これらの手術は増加の一途をたどっています。

大学病院の重要な役割の1つが、医学生・研修医への教育です。手術室内では、脳神経外科手術への理解が進むよう、顕微鏡映像は3Dモニタで観察できるようにしました。術者の顕微鏡と同様の奥行きのある手術映像を観察することができ、教育上極めて有用です。マイクロ手術に入る前の開頭術の間は、術者にアクションカメラ（術者の目線方向の映像が投影される）を着用してもらったり、Exoscopeといわれる、外から観察する内視鏡で術野の模様をモニタに投影したりするなど、種々のテクノロジーを使った「医学生・研修医に分かりやすい映像」を提供するように心がけています。

岡山大学病院のモットーは、「あなたのそばに先進医療」です。高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てることでこれを達成することができます。私たち脳神経外科もこのモットーを念頭に、患者さん第一の診療を心がけ、心温かく懐の深い脳神経外科医を育て、最先端の機器・技術を駆使して、安全で確実な脳神経外科手術をこれからも行っていきます。

岡山大学大学院
脳神経外科学講座　教授
伊達　勲